rtk_kernelのビルド環境

ARMクロスコンパイラ

作者が確認した環境（GCCのバージョンは多少異なっても大丈夫と思う。
尚、makeとperlコマンドが使えるようにしておく必要がある。

（Windows msys2）

- Windows10 Pro x64 ver1903
- msys2
- GNU ARM Embedded Toolchain 6 2017-q2-update

インストール手順は「（msys2）ARMのGCCコンパイル環境を構築する」記事を参照。

（Mac）

- macOS v10.14.6 Mojave
- GNU ARM Embedded Toolchain 8-2018-q4-major

インストール手順は「（macOS）ARMのGCCコンパイル環境を構築する（brewから公式（GNU Arm Embedded Toolchain）をインストール）」記事を参照。

（Linux）

- Ubuntu 18.04 LTS Server
- gcc-arm-none-eabi package in Ubuntu 6.3.1 20170620

インストール手順は「（Ubuntu 18.04 LTS Server）ARMのGCCコンパイル環境を構築する」記事を参照。

（Windows10 WSL）

Windows10のWSL（Windows Subsystem for Linux）は、基本的にはLinuxコンソールなのでコンパイル手順は上記（Linux）と同様。

インストール手順は「（Windows10/WSL Ubuntu 18.04）ARMのGCCコンパイル環境を構築する」 記事を参照。

コンパイルに必要な環境変数

rtk_kernelをコンパイル実行するには、下記の環境変数が設定されている事が必要。

環境変数	説明	例
BD	T-Kernelソースのベースパス	/C/work/rtk_kernel/tkernel_source
GNU_BD	ARMコンパイラのベースパス	/C/Program Files (x86)/GNU Tools ARM Embedded/6 2017-q2-update

環境変数の設定

$HOME/.bashrc に下記のような設定を追記しておくと便利。

```
export BD=/C/work/rtk_kernel/tkernel_source
export GNU_BD='/C/Program Files (x86)/GNU Tools ARM Embedded/6 2017-q2-update'
```

rtk kernel

From:
https://www.yokoweb.net/dokuwiki/ - **新石器Wiki**

Permanent link:
https://www.yokoweb.net/dokuwiki/develop/rtk_kernel/rtk_kernel-build-toolchain

Last update: **2026/07/28 13:16**